

トンボ目アオイトトンボ科

# コバネアオイトトンボ

*Lestes japonicus* Selys, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

県内での分布がもともと限られる種であるが、近年、過去の産地のほとんどで生息の確認ができない状況。全国的にも減少が著しく、特に中部、関東地方では、ほとんどの県で絶滅状態である。微妙な環境変化が、本種の生息に大きなダメージを与え、他種に先駆けて絶滅するようである。

### 【概要】

全長38－44mm。金緑色があざやかな中型のイトトンボ。国産のアオイトトンボ属4種中、最小である。朝鮮半島・中国の一部に分布し、国内では青森から鹿児島まで分布するが、産地は局地的。

### 【県内での生息地域・生息環境】

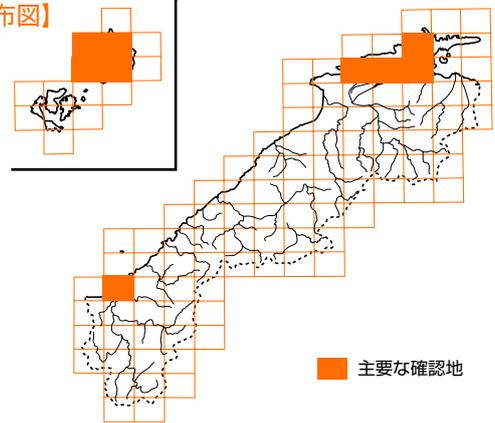
過去の記録は島根半島部と隠岐（島後）に集中している。一方を雑木林に囲まれた植生豊かで比較的大きな池沼に生息する。現在の確実な生息地は隠岐（島後）の油井ノ池だけで、ここ数年、本土側での記録が途絶えてい

る。

### 【存続を脅かす原因】

開発等による水域の植生環境の変化や背後林の消失。溜池改修等による長期間に渡る池沼の干し上げ。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○	○									○					○				

トンボ目イトトンボ科

# モートンイトトンボ

*Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

### 【選定理由】

分布は幾分限られるものの、かつては県内で産地が散見されたが近年そのほとんどが消失。全国的にも西日本で減少傾向が著しく、絶滅したとされる県もある。

### 【概要】

全長22－32mmの小型のイトトンボ。オスは腹端部の鮮やかな橙色が目立ち、また眼後紋が弧状で、一見して他種と区別できる。未熟なメスは全身鮮やかな橙色であるが、成熟するにつれて黄緑色に変わり、腹部背面に黒条が現れる。5月中旬から6月下旬ごろが最盛期。交尾は早朝に行われ、メスが植物組織内に単独で産卵する。朝鮮半島から沿海州にかけて分布し、国内では北海道南端から九州南端まで分布。

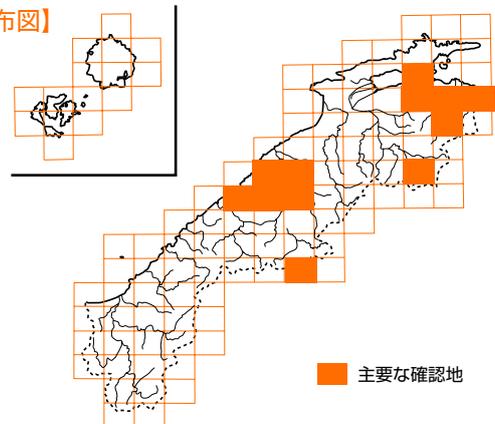
### 【県内での生息地域・生息環境】

平地から低山地にかけての湿地や休耕田等に分布するが、生息地が乾燥化、草原化する例が多く安定した産地はごくわずか。県西部と隠岐諸島では未記録。

### 【存続を脅かす原因】

造成等開発による生息地の消失や湿地の乾燥化、草原化。水田への農薬散布。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	森林	草原	農地	河川	湖沼	湿地	林地	草地	砂浜	河口
○	○									○			○						○				

トンボ目サナエトンボ科

# ヒロシマサナエ

*Davidius moiwanus sawanoi* Asahina et Inoue, 1973

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：中国地方固有亜種

環境省：－

### 【選定理由】

県内からは約50年間記録がなかったが、2007年に益田市で新産地が発見された。現在この産地が、県内唯一の生息地であり、また国内における本種分布域の西限となっている。

### 【概要】

全長40-46mm。黒地に黄色い条斑を持つ小型のサナエトンボ。日本特産種モイワサナエの西中国地方亜種で、1954年5月に出雲市所原町で採集された1オスが本亜種の国内初記録であり、標本も現存。その後、広島県の八幡高原で多数の生息が確認され、広島産標本に基づき亜種記載された。

### 【県内での生息地域・生息環境】

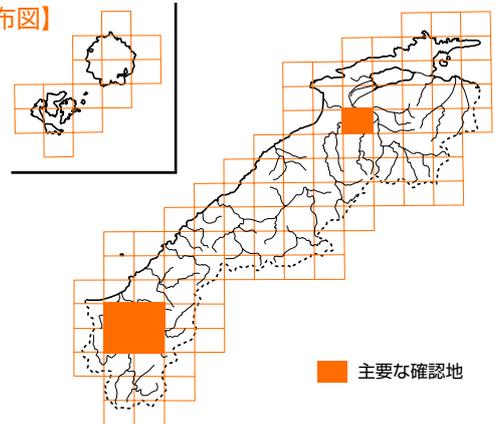
中国地方の他県の産地全てが、中国山地の分水嶺付近に形成された高標高 (alt.500~800m) の湿原等を流れる緩流であるが、益田市の生息地は低標高 (alt.100m前後) の里山的環境の溪流であり貴重。同様の環境は周辺

に少なくないことから、今後の新産地追加が大いに期待できる。

### 【存続を脅かす原因】

里山や山林開発による、生息環境の悪化や消失。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○						○						○									

トンボ目トンボ科

# マイコアカネ

*Sympetrum kunkeli* (Selys, 1884)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

過去の記録によれば、県東部の平野部で比較的普通に分布していたことがうかがえるが、ここ数年県内からの記録が途絶えており絶滅も懸念される。全国的にも近年急激な減少傾向が指摘されている。

### 【概要】

全長29-40mm。小型でやや細身のアカトンボ。成熟オスでは顔面が青白色になる。ヒメアカネ、マユタテアカネに似るが、本種では翅胸部側面に短い黒色条があることで識別できる。朝鮮半島や中国北東部にも分布し国内では北海道から九州まで記録がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

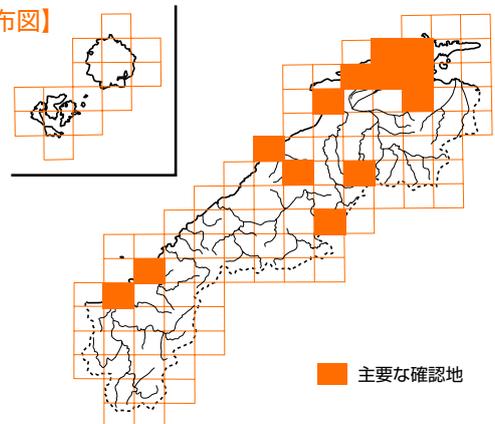
記録のほとんどが島根半島部周辺であり、中部・西部の沿岸部でも記録が散見される。おもに植生豊かな池沼に生息するが、本種は生息環境の変化に非常に敏感であり、生息地周辺の雑木林の伐採等わずかな環境変化であっても深刻な影響を受けてしまう。隠岐諸島では未記

録。

### 【存続を脅かす原因】

生息する池沼の植生環境や水質の悪化。生息地周辺の雑木林等の伐採。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域							
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	小川	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○												○									

# コカワゲラ

*Miniperla japonica* Kawai, 1967

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：分布域局限種

環境省：準絶滅危惧 (NT)

**【選定理由】**

斐伊川の中下流域が本種の唯一の確実な生息地とされているが、2000年以降は確認記録がなく、絶滅が危惧される。

**【概要】**

体長8mm前後の小型のカワゲラで、1属1種の日本固有種。基準産地である京都府宇治川では1958～1959年に確認されて後、記録が途絶えている。成虫は7～8月に灯火に飛来する。幼虫の確認は斐伊川下流域の1例のみで生態は未知な部分が多い。

**【県内での生息地域・生息環境】**

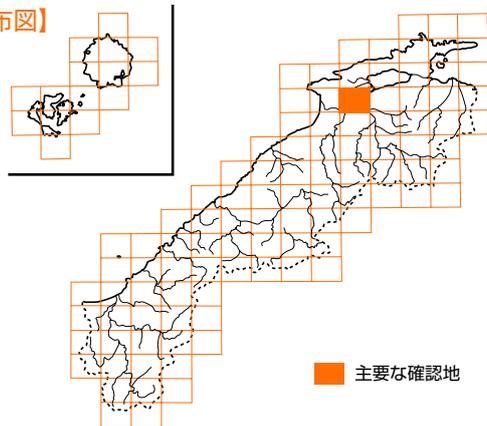
1997年に斐伊川で初めて生息が確認され、1998年に中下流域で広範に成虫、1999年に下流域の流水部の砂河床で幼虫が採集されている。しかしながらそれ以降は確認記録がなく、2006・2009・2010年には斐伊川中下流域において本種を対象とした生息調査が実施されたものの、確認に至っていない。経年調査による生息状況の把握、

幼虫の成育環境等の生態解明が急務である。

**【存続を脅かす原因】**

河川及び沿川の環境変化が考えられるが、生態未解明のため詳細は不明である。

**【分布図】**



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○											○					○					

# カワラバッタ

*Eusphingonotus japonicus* (Saussure, 1888)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 11

島根県固有評価：－

環境省：－

**【選定理由】**

県内の分布は局地的であり、生息環境の変化により急激に生息数を減らす可能性がある。

**【概要】**

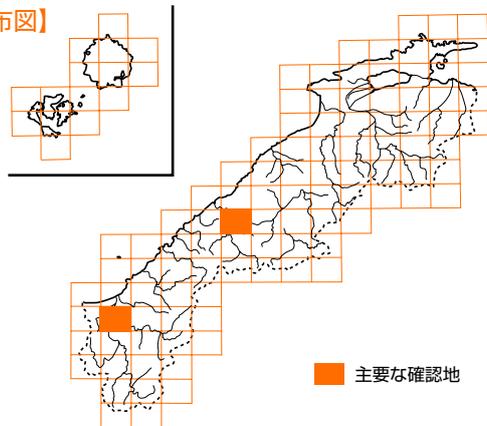
体長約25～45mm。体色は、灰色から青灰色に黒色紋を散布し、河原の礫に似た色彩を持つ。後翅中央部に褐色の半円帯があり、その内側は鮮やかな青色。中礫から大礫サイズの円礫が堆積し、草が疎らに生えるような河川敷に生息する。成虫は7～10月に出現し、河川からやや離れた場所の灯火に飛来することがある。日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布する。

**【県内での生息地域・生息環境】**

県内では江の川水系と高津川水系に局地的に生息している。過去に記録のある斐伊川水系や隠岐諸島では、現在は確認できない。過去の隠岐諸島における分布が確実であるとすると、現在は絶滅したとみられる。

洪水が起こらないことによる礫河原の草地化。大規模洪水が発生し後の復旧工事による河床礫の移動や除去。

**【分布図】**



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○	△			○					○										

カメムシ目コオイムシ科

# タガメ

*Lethocerus deyrollei* (Vuillefroy, 1864)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵11

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

県内では隠岐諸島も含めて広く分布するが、生息地の減少が著しく、灯火に飛来する個体の確認例も少なくなっている。危機的な状況である。

## 【概要】

体長48－65mm前後で日本最大の水生昆虫である。平野部から山間地の池や水田、休耕田、湿地などの止水域に生息している。成虫のオスが卵を守る習性がある。国外ではシベリア、朝鮮半島、台湾、中国、アッサムに分布し、国内では本州、四国、九州、対馬、南西諸島に分布する。

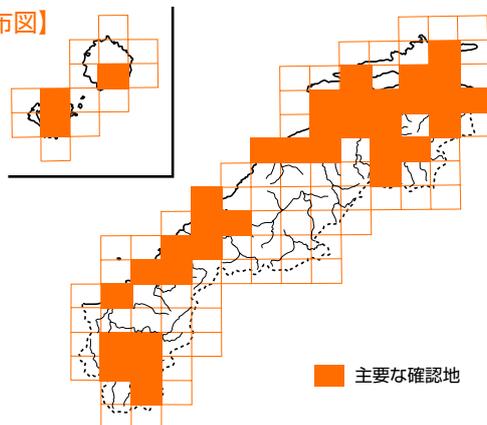
## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では各地に広く分布しているが、生息地そのものは少ない。水生植物の豊富な池や湿地でみられることが多いが、個体数の多い地域ではさまざまな止水域に生息している。特に水田は繁殖場所として重要な環境である。灯火へ飛来することがある。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移、農薬を含めた水田管理方法の変化、灯火に飛来した個体の轢死、採集。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○				○									○					

カメムシ目ナベブタムシ科

# トゲナベブタムシ

*Aphelocheirus nawae* Nawa, 1905

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

全国的にみても希少性が高く、生息環境の悪化による絶滅が危惧される。県内では西部で1カ所の産地が確認されているのみである。

## 【概要】

体長8.5－10mm前後。流速があり、底に砂や細礫のある水路や川に生息する。近縁種のナベブタムシとは腹背腺や前胸背などの特徴で見分けることができる。本州・九州、国外では朝鮮半島に分布するが国内では西日本に偏る。島根県では1998年に初めて発見された。

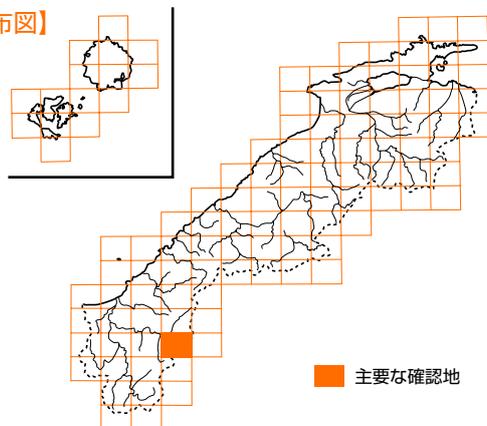
## 【県内での生息地域・生息環境】

県内では益田市匹見町の1水路で採集されている。しかしこの水路は2012年の調査では、3面コンクリート化され底の細礫がほとんどなくなっており、本種は見つからなかった。かつては多産した同属のナベブタムシも見られなくなった。本県では新たに生息地が確認されなければ、絶滅した可能性が大きい。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川・水路の改修。水中の溶存酸素量の減少や泥の堆積は本種の生存に悪影響を与えることが予想される。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	
		○					○															

コウチュウ目ハンミョウ科

# ハラビロハンミョウ

*Cicindela sumatrensis niponensis* Bates, 1883

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

砂質海岸の河口付近に生息するハンミョウで、県内の生息地が限られ、孤立化して個体数も少なく絶滅が危惧される。

## 【概要】

体長 12-14mm。銅色で溝や点刻などは青緑色を帯び、上翅に黄白色で屈曲した帯紋がある。成虫は 5～9月に砂質海岸の河口部に出現し活動する。本州(中部以西)、九州、種子島などの限られた砂質海岸に分布するが、各地で減少が顕著といわれる。

## 【県内での生息地域・生息環境】

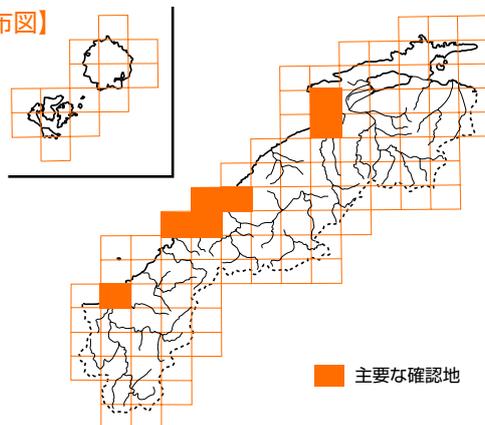
出雲海岸から益田海岸までの数カ所で生息が確認されている。生息地は背後に海浜植物の植生がある砂質海岸で、春季越冬成虫、夏季に新成虫が出現する。河口の河川側が活動域で、成虫は水際の湿った砂浜を敏捷に歩行する。幼虫は水辺に近い砂浜に巣穴をつくる。生息地であった神戸川河口、差海川河口は、近年は生息が確認さ

れていない。

## 【存続を脅かす原因】

大規模工事による砂浜の攪乱、堆砂の移動、砂浜の縮小、漂着物の堆積。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	◎	◎																		○	◎

コウチュウ目ハンミョウ科

# カワラハンミョウ

*Cicindela laetescripta* Motschulsky, 1860

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

砂質海岸の河口付近の砂浜などに生息するハンミョウで、限られた生息地は孤立化し、個体数もきわめて少なく、絶滅が危惧される。

## 【概要】

体長15mm前後。上翅は白に銅緑色の模様があり地域によって模様に変異がある。細砂の河口や砂丘海岸に生息し、成虫は 7～8月に出現する。砂上を敏捷に歩行し、近づくと飛翔する。北海道、本州、四国、九州に分布し全国的に激減している。

## 【県内での生息地域・生息環境】

江の川以西の砂質海岸に局所的に生息するが、個体数はきわめて少ない。春季に越冬成虫、夏季に新成虫が出現し、水辺からやや離れた開けた砂浜を敏捷に歩行する。幼虫も成虫が活動する砂浜に巣穴をつくる。

## 【存続を脅かす原因】

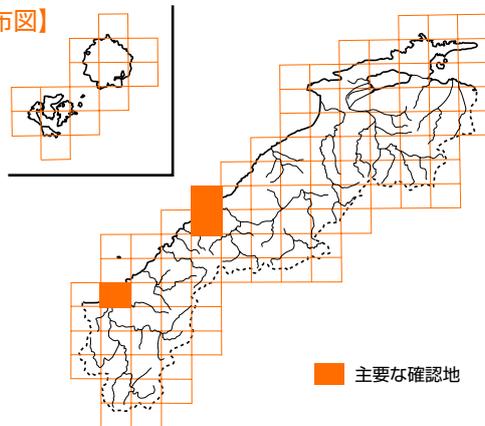
大規模工事による砂浜の攪乱、堆砂の移動、漂着物の

堆積のほか、海浜植物の繁茂による砂浜の縮小。

## 【特記事項】

平成24年3月6日島根県条例に基づく指定希少野生動物植物に指定されたため採集は禁止されている。

## 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	◎																		◎	○

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

コウチュウ目オサムシ科

# オオヒョウタンゴミムシ

*Scarites sulcatus* Olivier, 1795

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

砂質海岸に生息する大型のヒョウタンゴミムシで、全国的に減少しており、県内でも生息地が限られ、個体数も少なく絶滅が危惧される。

## 【概要】

円筒形で体長 28-38mm。全体が黒色で光沢がある。砂質海岸やそれに隣接する場所に生息し、成虫は5~10月に出現する。夜行性で日中は漂着物の下や地中の孔道に潜み、夜間に地表を徘徊して他の昆虫などを捕食する。本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国、台湾、東南アジアなどに分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

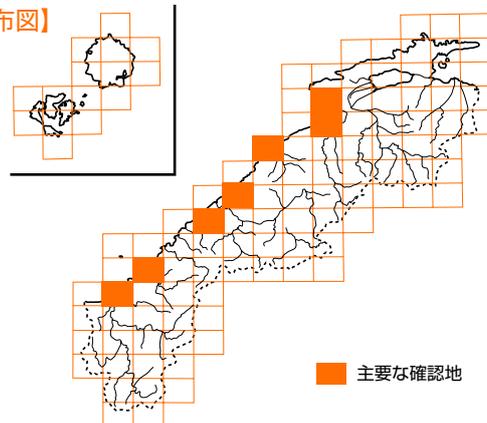
浜山公園を含む出雲海岸から益田海岸に至る砂質海岸で、生息が確認されているが個体数は少ない。汀線から離れた海浜植物の植生地から背後の防風林内の砂地が生息域となっており、出雲海岸では防風堆砂垣付近に多く見られたが破損埋没した。また、隣接する道路の側溝

に落ちている個体も少ない。

## 【存続を脅かす原因】

松枯れ防除の農薬散布、防風林の荒廃・消失。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎	◎	○																○	○	○	

コウチュウ目オサムシ科

# イワタメクラチビゴミムシ

*Daiconotrechus iwatai* S.Uéno, 1970

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：島根県固有種、基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

松江市 (大根島) にある玄武岩質の火山洞窟 (竜溪洞) を基準産地とする大根島の固有亜属で、同島の地中環境が変化した場合、キョウトメクラヨコエビなど、他の地下性種とともに絶滅する危険が大きい。

## 【概要】

体長約 3mm。黄褐色で扁平。複眼は完全に退化。背面に10対の長剛毛を有し、触角は長い。ダイコンメクラチビゴミムシ属 (以下、チビゴミムシを省略) は、ノコメクラ属とチョウセンメクラ属の中間形態を示す属で、2007年に長崎県の対馬でホソメクラ亜属の2新種が記載され、本種と併せて3種を含む属となった。島根半島でノコメクラ属の新種 (イズモメクラチビゴミムシ) が見つかったことと併せてチビゴミムシ属の系統と進化を考えるうえで本種の重要性はより高まっている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

本種が確認されているのは松江市 (大根島) の竜溪洞

のみ。これまでに計10個体が採集されている (1970年2個体、1979年2個体、1997年1個体、2002年2個体、2005年2個体、2008年1個体)。幼虫は未知。地下適応が進んだ種であり、分布域は竜溪洞を含む大根島の地下空間の一部と考えられる。具体的な範囲は明らかではないが、同島のほかの洞窟 (幽鬼洞) で見られないことから島内全域に分布しているわけではない。洞内では湿潤な泥上に転石があるような環境で見つかることが多く、特定の微環境を選好している可能性が高い。

## 【存続を脅かす原因】

周囲を中海に囲まれている大根島の地形特性から地下水水質の変化は脅威となり得る。また本種の生息に地下の微生物相が関与している可能性があることから、地表からの肥料などの薬剤浸透による微生物相の変化にも注意を要する。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	洞窟	林地	草地	砂浜	河口
○																		○				

コウチュウ目オサムシ科

# イソチビゴミムシ

*Thalassoduvallius mashidai mashidai* Uéno, 1956

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

周布川河口で発見されたチビゴミムシで、島根半島で再発見されたが、不安定な潮間帯の岩礁に生息し、絶滅が危惧される。

## 【概要】

体長4.6-4.9mm。浜田市周布川河口で発見され、新属新種として記載された。全体が褐色で頭部が大きく、上翅は丸味が強い。満潮線の近くの大きな石の下や積み重なった礫の底で、真水が海にしみ込むような場所を好むといわれる。愛媛県宇和島、神奈川県真鶴岬、伊豆大島などに別亜種が分布する。

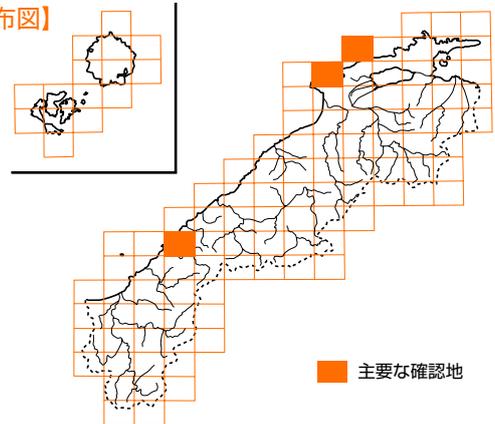
## 【県内での生息地域・生息環境】

周布川河口左岸の岩場で、こぶし大の小石が堆積した下の海水中から採集された。その後は長らく未発見であったが近年島根半島の海岸2カ所で再発見された。背後地の崖から淡水がしみ出すような岩礁地の礫の隙間や波打ち際の礫間で採集されている。

## 【存続を脅かす原因】

大規模工事による礫浜の改変、漂着物の堆積など生息環境の悪化。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○		○																			△	◎

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# マルコガタノゲンゴロウ

*Cybister lewisianus* Sharp, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：-

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

本種は国内ではもっとも絶滅の可能性が高いゲンゴロウの1つで、とりわけ西日本の個体群はきわめて危険な状況にある。県内では数例の記録があるのみである。

## 【概要】

体長21-26mm。背面は暗緑色で前胸背板・上翅に黄色の縁取りがある。腹面は全体に黄色。体は卵形で丸みが強い。似ているコガタノゲンゴロウの腹部は全体に黒色を帯びる。生息場所は、水生植物の多い池などの止水域である。比較的、大きな池に生息することが多い。

本種は中国、インドシナに分布し、国内では本州と九州に分布する。本州での分布は青森県から山口県までと広い。

## 【県内での生息地域・生息環境】

松江市では1955年の記録が残されている。2003年秋に県東部で採集された1頭が近年の確実な記録である。その後、県中部でも記録がある。県内での分布状況や生息

環境については不明な点が多く、調査が必要である。しかしながら、本種の生息可能な止水域環境の条件は、非常に限られている可能性が高く、何らかの環境の変化により絶滅するおそれがある。

## 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（特にオオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニ）の侵入・繁殖、違法な採集。

## 【特記事項】

本種は「種の保存法」により2011年に国内希少野生動物種に指定されており、捕獲だけでなく、標本等の譲渡や貸借も許可無くすることはできない。生息状況を確認した上で具体的な保全措置を取る必要がある。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口	岩礁
○	○											○					△					

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# ゲンゴロウ

*Cybister chinensis* Motschulsky, 1873

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵12

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

かつてはふつうにみられた水生甲虫である。しかし、現在は激減し自然度の高い止水域で確認されるのみであり、絶滅が危惧される。近年の確認例は著しく減少しており、危機的な状況である。

### 【概要】

体長34－42mm前後。前胸背板・上翅に黄色の縁取りがあり、腹面は全体に黄色だが、中央部は暗色。オスの上翅表面は平滑だが、メスには細かなシワ状の溝がある。水生植物の多い溜池や水路、水田などの止水域をおもな生息地としている。

国外では朝鮮半島、台湾、中国、シベリアに分布する。国内では、北海道、本州、四国、九州に広く分布し、垂直分布も広い。日本の代表的な大型水生甲虫であるが、全国的に減少傾向が著しく各都道府県のレッドデータブックに掲載されている。

### 【県内での生息地域・生息環境】

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	△				○					○					△				

隠岐諸島では古い記録があるが、詳細は不明である。本土側では各地に分布しているが、産地は山間部など局地的である。とりわけ、平野部での生息は絶望的な状況である。浮葉植物や抽水植物の豊富な溜池などの止水域が県内でのおもな生息環境である。本種が生息する止水域には、微少種から大型種までのゲンゴロウ科やガムシ科、水生半翅類など多種多様な水生昆虫類が生息していることが多く、その生息環境は種多様性からみても貴重である。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、移入生物（ウシガエル、オオクチバス、ブルーギル、アメリカザリガニ）の繁殖。水田の管理方法の変更。採集。

コウチュウ目ゲンゴロウ科

# シャープゲンゴロウモドキ

*Dytiscus sharpi* Wehncke, 1875

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

### 【選定理由】

県内では中部や西部で数カ所の産地が確認されているのみであり、生息環境の悪化や消滅による絶滅が危惧される。近年の確認例がないことも憂慮すべき状況である。また、全国的にみても希少性が高い大型種のゲンゴロウである。

### 【概要】

体長28－33mm前後。コナギやオモダカ、ヒルムシロなどの生えた泥深い湿地や水路などに生息し、特に湿地化した放棄水田は本種のもっとも好む環境である。日中は泥に潜っていることなどから、他のゲンゴロウ類に比べて発見されにくい。

本種は日本固有種であり、本州・佐渡に分布する。1990年代前後に生息が確認されている県は千葉、新潟、富山、石川、滋賀などである。島根県では1992年に初めて発見されたが、2001年に確認されたのが最後で、その後は新たな生息地も含めて確認されていない。

### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では溜池で生息が確認されている。新たに生息地が確認される可能性はあるが、放棄水田などの湿地は遷移の進行により数年から数十年で乾燥化し、生息できなくなってしまう。

### 【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、池沼の開発改修、自然遷移、違法な採集。

### 【特記事項】

本種は「種の保存法」により2011年に国内希少野生動物種に指定されており、捕獲だけでなく、標本等の譲渡や貸借も許可無くすることはできない。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○	○					○					○									

コウチュウ目コガネムシ科

# ダイコクコガネ

*Copris ochus* (Motschulsky, 1860)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

本種は全国的に減少傾向にあり、本県でも生息地は局限される。今後、牧畜形態の変化によっては絶滅が危惧される。

### 【概要】

体長18-28mm。黒色で光沢は鈍い。オスは、頭部に後方に反った1本の大きな角を持ち、前胸背板にも2対の突起があるが、小型なオスになるほど目立たない。メスは頭部に板状の横隆起と前胸背板に弧状に突出した横隆条と1対のくぼみがある。成虫は、5~10月に発生する。牛糞下に坑道を掘り、育児室を作って数個の糞球を作り産卵する。シベリア、モンゴル、中国、朝鮮半島、北海道、本州、四国、九州、佐渡島、伊豆諸島、壱岐島、対馬、大隅諸島に分布する。

### 【県内での生息地域・生息環境】

本種は、三瓶山の放牧地にのみ生息が確認されている。

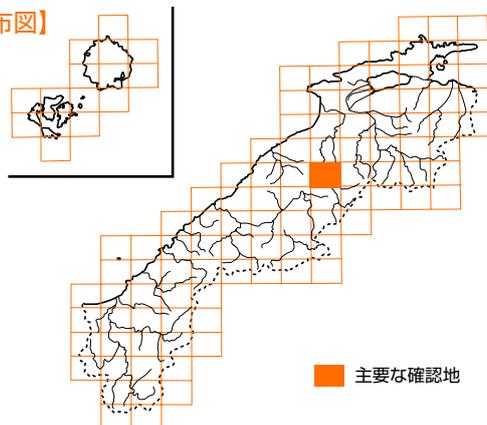
### 【存続を脅かす原因】

生息地での牧畜形態の変化。採集圧の増加。

### 【特記事項】

平成22年12月に島根県条例に基づく指定希少野生動物に指定されたため採集は禁止されている。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
◎					○																

コウチュウ目カミキリムシ科

# オオハナカミキリ

*Kanoa granulata* (Bates, 1884)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：-

### 【選定理由】

日本特産種で冷温帯地域に生息する。本県では島根半島の枕木山周辺の低標高地に生息し、特異な分布であるとともに分布西限でもある。

### 【概要】

体長15-23mm。頭・胸部は黒色、上翅は暗赤色。全体が灰黄色の微毛を有する。成虫は5~8月に出現し、アカメガシワ、リョウブなどの花に飛来する。北海道、本州に分布。全国的にはブナ帯で生息している例が多い。幼虫の食樹種はブナ、モミ、アカマツからの発生記録がある。県内では、近年も島根半島部で少数採集されている。この地域では松くい虫被害によって大径のアカマツがほとんど消失している。モミは大木が残存しており、寄生樹種である可能性が高い。

### 【県内での生息地域・生息環境】

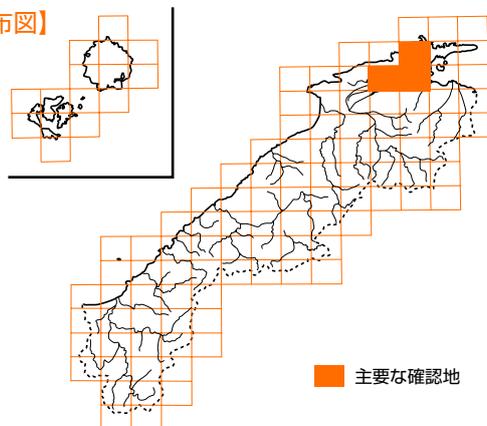
おもに島根半島東部で採集記録がある。古くは市街地での記録があるほか、平地の広葉樹林でも採集記録があ

る。

### 【存続を脅かす原因】

生息域での森林伐採、特に寄生樹種であるアカマツ、モミの大径木を有する生息環境の消失。

### 【分布図】



■ 主要な確認地

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○								○					△								

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ヤガ科

# カバフキシタバ

*Catocala mirifica* Butler, 1877

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：隔離分布種

環境省：－

## 【選定理由】

国内および県内での生息地がきわめて限定され、個体数も少ない。

## 【概要】

前翅長26mm内外。前翅はキシタバ類に多い樹皮模様で、灰青色を帯びる。中央から翅頂部にかけては、前縁に接して、広い暗色部分がある。

成虫は7～8月に出現し、灯火や樹液に飛来する。また果樹にもやって来るといふ。幼虫の食樹はカマツカが知られる。

本州および四国に分布するが、局地的で、国内に産するキシタバ類のなかで、姿を見るのがもっとも困難な種といわれている。国外では中国に分布。

## 【県内での生息地域・生息環境】

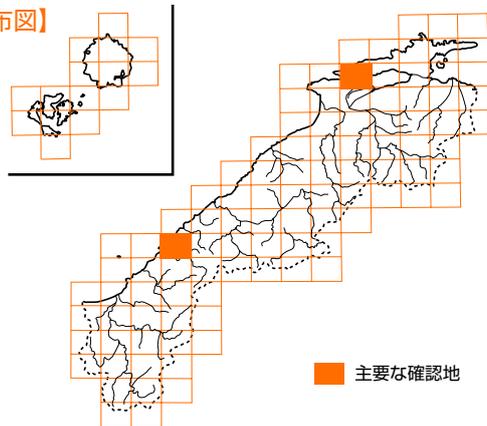
島根半島西部および県西部のやや海寄りの地域での古い採集例があるだけで、記録も途絶えている。生息環境が海寄りの地域のみともいいがたい。今後も調査を行い、

生息実態を把握する必要がある。

## 【存続を脅かす原因】

雑木林を含む良好な林の消失。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△		△						△					△								

チョウ目シジミチョウ科

# キマダラルリツバメ

*Spindasis takanonis* Matsumura, 1906

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵13

## 【選定理由】

生息地は限定され個体数も少ない。

## 【概要】

翅長13-17mm。朝鮮半島、本州（北限は岩手県、西限は広島県）に分布。クロマツ・ニセアカシア林、ソメイヨシノ・アカマツ林、クリやキリなどが混じる雑木林、カシワ林の4パターンの生息環境がある。年1回6月中旬から7月にかけて発生。夕刻、梢の先で占有行動をとって敏速に飛びまわる。鳥取市では天然記念物に指定されている。ムネジワハリブトシリアゲアリと共生して幼虫期（7令）をおくる。

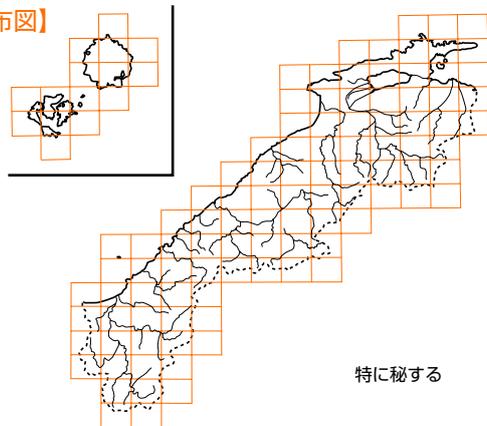
## 【県内での生息地域・生息環境】

安来市伯太町で1965年6月1日に板垣治氏が採集した1オスが唯一の採集記録。その他、三瓶山（伊藤宏氏）、匹見峡（山田学氏）でも確かな目撃記録があり、再確認が望まれている。出雲市と六日市町の古い記録には疑問点があり、引用すべきでない。

## 【存続を脅かす原因】

安来市伯太町の山の反対側の生息地（鳥取県米子市奈喜良）では農薬空中散布によって滅びた。シリアゲアリが巣をつくる樹木とその周辺の林の保全が必要である。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	△	△		△				△	△	△											

チョウ目シジミチョウ科

# ルーミスシジミ

*Panchala ganesa loomisi* (H. Pryer, 1886)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

固有評価：分布限界種 (北限)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 【選定理由】

西日本の照葉樹林（常緑広葉樹林）に生息するが、その生息地は局限される。県内では隠岐（島後）が唯一の生息地で、個体数も減少傾向。

### 【概要】

翅長13-15mm。国内の確実な生息地は千葉県清澄山、山口県長門峡、和歌山県古座川町、鹿児島県屋久島など数カ所。奈良県春日山では国の天然記念物に指定されていたが、薬剤散布で絶滅した。アカガシが混じる常緑広葉樹の渓谷に生息する。具体的には、兩岸は切り立って険しい斜面となり、川はゆるやかに流れ、カシ類が鬱蒼とおおい茂り、風通しの悪いという条件の渓谷。7月中旬に羽化し、そのまま成虫で越冬、翌年5月ごろから活動を再開、食樹アカガシの新芽のりん包内部に1卵ずつ産卵する。年1化である。

### 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（島後）での野外観察では、アカガシの高所樹冠

に潜んでいることが多く、目撃は容易でない。しかし、気温が30度を超す日には、暑さを避けるように谷底に降りてきて、時に吸水もする。隠岐（島後）の生息地は、全国各地の生息地と比較して規模はごく小さく、近年の道路工事による伐採などで、危機的状況に陥っている。一度消滅すると二度と回復することがないため、アカガシ原生林を破壊する大規模な伐採・植林や林道開発などは厳重な注意が必要である。

隠岐諸島における最初の発見者は木村康信氏である。

なお1950年代に三瓶山や大田市近郊で採集記録が残されているが再確認されておらず、また、上記した特殊な渓谷環境が見い出せず疑問がある。

### 【存続を脅かす原因】

高標高地の林道建設や大規模な植林によるアカガシの混じった自然度の高い照葉樹林の伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○	○																	

チョウ目シジミチョウ科

# ウラナミアカシジミ

*Japonica saepestriata* (Hewitson 1865)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：-

環境省：-

### 【選定理由】

生息地・個体数とも著しく減少している。

### 【概要】

翅長18-22mm前後。山地のクヌギを含む疎林や林、平地、低山地のクヌギ、コナラ、ナラガシワなどを含む雑木林に生息しているが、クヌギへの依存度が強い。平地では6月に発生、山地では7月でも見られる。山陰ではアカシジミと混生するところもあるが、本種のほうが少し遅れて発生する。日中は脅かさないと思われ飛ぶことは少ないが、夕方から活発に飛び回る。

### 【県内での生息地域・生息環境】

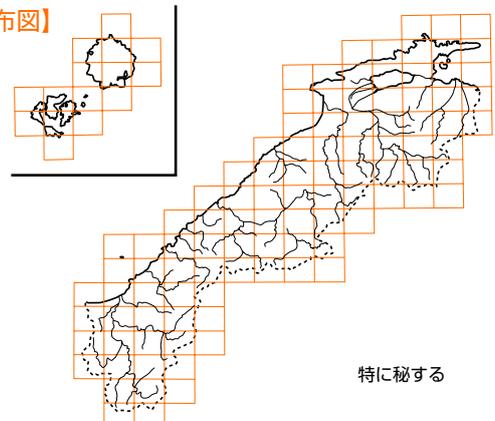
県内ではもともとクヌギ林に乏しいこともあり、西部（六日市町など）、東部（大東町など）にわずかに記録があったのみで、近年県内における本種の目撃記録はないようである。

古木ではなく若木を好むため、人為による定期的な雑木林の更新が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

クヌギ林を含む雑木林の手入れ不足による荒廃。雑木林（二次林）は適切な伐採更新によって生態系が維持される側面がある。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○						○					○								

チョウ目シジミチョウ科

# クロシジミ

*Niphanda fusca* (Bremer et Grey, 1853)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

1990年代から急激に生息地、個体数とも減少している。

### 【概要】

翅長20-22mm。本州、四国、九州に分布するが、生態が特異なため局地的。6月下旬から8月にかけて発生、山地のカシワ・クヌギの疎林、アキグミの生えた草原などが生息地。開発や伐採で人手が入りやすく、また植生遷移が進行しやすいなどの不安定な環境に多い。

メスは下草にいるが、オスは樹上に静止、夕方には敏速に飛び回る。ともにノアザミ、ヒメジョオン、オカトラノオなどで吸蜜する。産卵する草木はさまざま、隠岐ではアキグミ。そこには必ずグミキジラミがいる。クロヤマアリ（知夫里島）、クロオオアリが近くにいることが条件となり、産卵するメスは近くの草木に止まり、アリの様子をうかがいながら、キジラミの近くに産卵する。やがて孵化した幼虫はキジラミの分泌物をなめ、幼虫自身が分泌物を出すようになると、アリに巣へ運ばれ、

アリに餌をもらい成長し、翌年蛹になり巣から出て翅を伸ばす特異な生態をもつ。

### 【県内での生息地域・生息環境】

玉造は1960年代、三瓶山では1990年代以降の正式な報告はなく絶滅している可能性がある。1990年代以降確認されている生息地は隠岐（知夫里島、西ノ島）のみ。隠岐（島前）は牧畑という放牧場が1,000年以上にわたって維持・更新されており、良好な生息地となっていた。

隠岐島産は特異な地域個体群であり、特別な保全が必要である。

### 【存続を脅かす原因】

計画的な雑木林、草地の更新が必要である。10年ほど前から隠岐（知夫里島）では、放牧場を近代的に整備するため除草剤によってアキグミが除去されるなど、憂慮される事態がおきている。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	△		○																		

チョウ目シジミチョウ科

# シルビアシジミ

*Zizina emelina emelina* (de l'Orza, 1869)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵13

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

産地が局地的で、1990年代から著しく個体数が減少している。

### 【概要】

翅長10-12mm。5月上旬ごろ第1化が現れ10月ごろまで年4回の発生と思われる。ヤマトシジミに酷似し、混生するが、後翅裏面の黒斑の並びで識別できる。食草ミヤコグサが繁茂するシバ状の草地に見られる。食草の花やウマゴヤシ、カラスノエンドウなどで好んで吸蜜し、時には吸水もする。

### 【県内での生息地域・生息環境】

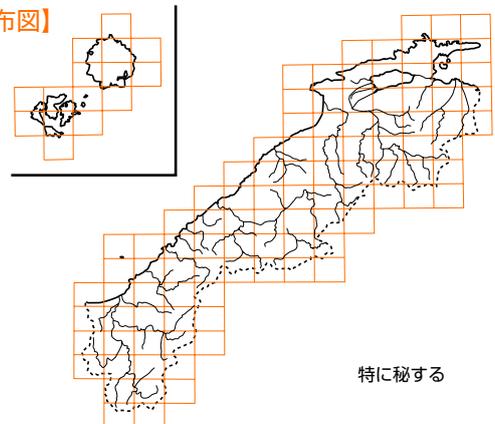
生息環境は牧場、河川堤防、海岸岩場の狭い草地など。旧・島根町、旧・大社町の日本海の潮をかぶるような岩場の発生環境は全国的にもまれであるために採集圧を受けている（西田秀行氏の発見）。高津川、江の川、周布川などの河川敷や堤防は草刈りを行う時期や範囲に工夫が必要と思われる（10月に一斉に広範囲に刈り取らない

など）。隠岐（知夫里島、西ノ島、中ノ島）の牧場にも生息している。

### 【存続を脅かす原因】

草地の荒廃、植生遷移。採集圧も大きい。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○																○		

チョウ目シジミチョウ科

# ヒメシジミ本州・九州亜種

*Plebejus argus micrargus* (Butler, 1878)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

## 【選定理由】

中山間地から山地の湿性草地に生息するが、生息地は限定され個体数も少ない。

## 【概要】

翅長13-17mm。北海道では溪流沿いの河川敷で発生したり、中部地方では2,000m辺りの乾燥草原でも見られるが、中国地方ではおもに中国山地沿いの湿性草原に見られる。年1回6月中旬から7月にかけて発生。オスとメスは翅の色が異なる。飛翔はゆるやかで草地を低く飛び、アザミ、オカトラノオなどで吸蜜する。

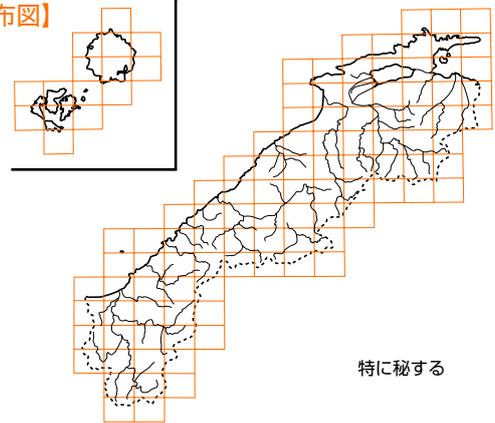
## 【県内での生息地域・生息環境】

旧・赤来町、旧・瑞穂町、雲月山の山頂部、旧・匹見町、旧・金城町など、狭い草地にわずかに残るのみである。近年、旧・仁多町でも発見されたが、おそらく隣県の広島県庄原市高野町からの飛来個体による一時的な発生と考えられる。赤名湿原では条例で採集が禁止されている。県内で確認されている食草はキセルアザミ。

## 【存続を脅かす原因】

湿原の埋立（産廃処分場）や乾燥化、草原の荒廃。温暖化も影響があるのではないと思われる

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○			○																

チョウ目シジミチョウ科

# ゴマシジミ

*Maculinea teleius kazamoto* (H. Druce, 1875)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

生息地も限定され、2000年代から著しく個体数が減少している。全国的にも減少が著しい。

## 【概要】

翅長18-22mm。ワレモコウのある草地に8月に発生するが、食草があっても見られないところが多い。有名な生息地、鳥取県大山山麓では、周囲に林がある急斜面の草地、田畑と山道に段差があり草の中にワレモコウが見られる場所に発生している。幼虫はワレモコウを食べ、途中からシワクシケアリの巣の中で、アリの幼虫を食べ、成長するという。

## 【県内での生息地域・生息環境】

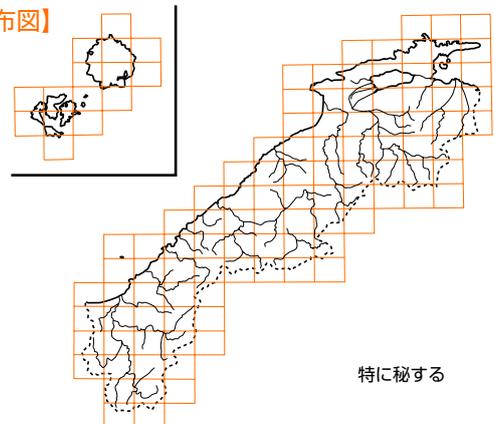
東部、中部の山地（邑南町、飯南町、奥出雲町など）に局地的に分布しているが、生息地は田畑ノリ面や道路際、林縁などのごく狭い範囲で個体数も少ない。遷移によって樹木が進出し、ワレモコウ自体が消滅していく傾向がある。アリと共生する特異な生態のため、保全が困

難な種でもある。

## 【存続を脅かす原因】

草地の荒廃、植生遷移。採集圧もある。

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○				○				○												

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目タテハチョウ科

# ウラギンスジヒョウモン

*Argyronome laodice japonica* (Ménétrières, 1857)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

以前は人里近くで普通に見られた種であったが、1980年代より個体数が激減している。

## 【概要】

翅長28-37mm。6月中旬ごろ発生、林周辺の明るい草地で見られ、アザミやオカトラノオなどの花で吸蜜する。盛夏には夏眠し秋に再び現われ産卵、卵または1令幼虫で越冬する。1970年代は普通種のため注目されることはなかった。しかし、その後、急速に姿を消しつつある。

## 【県内での生息地域・生息環境】

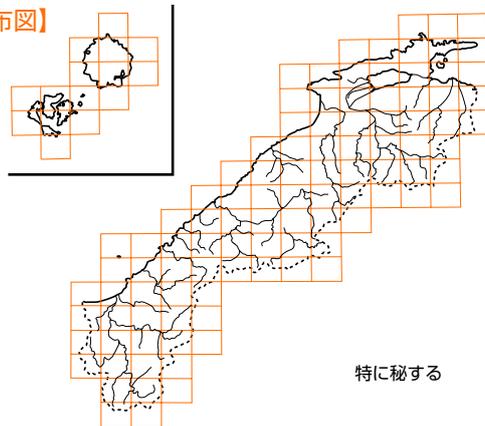
薪利用などで適度な伐採が入り、チョウ生息に良好な里山が、エネルギー改変により放置され、荒廃（遷移の進行）するにつれ減少した。1996年安来市の調査では、里山周辺の草地で少ないながら観察されていたが、現在では遷移が進み確認できない年が続いている。県全域で、なぜ激減しているのがはっきりとした要因がわからず、県内での発生状況や生息環境の詳しい調査が必要と思わ

れる。

## 【存続を脅かす原因】

雑木林周辺（林縁）の手入れ不足による荒廃。農薬。

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○	○		○				○					○							

チョウ目タテハチョウ科

# オオウラギンヒョウモン

*Fabriciana nerippe* (C. et R. Felder, 1862)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

1970年代以降急激に減少し、絶滅がもっとも危惧される種になっている。

## 【概要】

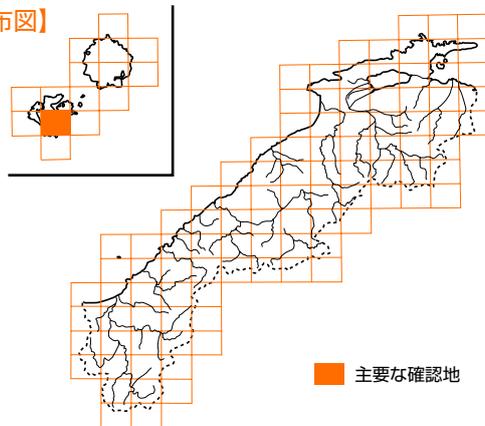
翅長33-42mm前後で、メスは大型になる。同属のウラギンヒョウモンに酷似するが、翅外縁部斑紋がハート型で識別は容易。年1回、6月上旬ごろから発生し7月に多く見られる。オスは活発に飛翔しオカトラノオ、アザミなどを訪れるが、メスは不活発でブッシュ内に潜んでいることが多い。近年、全国的に衰亡が著しく、残された産地は鹿児島県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、山口県などに数カ所しかない。生息環境は、石灰岩台地、火山性草原、牧場、自衛隊演習場などの大規模な草原で、スマレ、ツボスマレなどが多く見られるところに限られている。

1987年から始まった松枯れ対策殺虫剤空中散布によってほぼ絶滅した。

## 【存続を脅かす原因】

草原の荒廃、殺虫剤空中散布。

## 【分布図】



主要な確認地

## 【県内での生息地域・生息環境】

隠岐（知夫里島）が残された唯一の生息地であったが、

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
			○						○												

チョウ目タテハチョウ科

# ヒョウモンモドキ

*Melitaea scotosia* Butler, 1878

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

1980年代より全国的に衰亡が著しく、日本国内からの絶滅が憂慮されている。県内でも絶滅が危惧されている。

## 【概要】

翅長26－30mm。6月中旬ごろから7月上旬にかけて年1回、食草のタムラソウやキセルアザミが繁殖する湿地に発生、ゆるやかな飛び方でノアザミ、ヒメジョオンなどの花をよく訪れる。関東地方、中部地方、中国地方に局地的に生息していた。全国的に衰亡が著しく絶滅した産地も多い。広島県の大和町周辺は残された唯一の生息地で「種の保存法」によって保護されている。湿地の乾燥化、植生遷移、開発などの影響もさることながら、採集圧が個体数減少の大きな原因のひとつだったように思われている。

## 【県内での生息地域・生息環境】

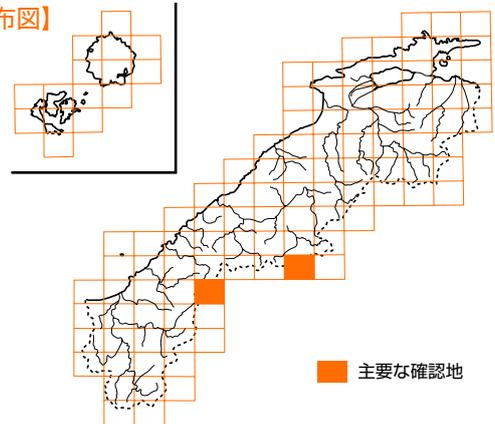
旧・金城町、旧・瑞穂町の2カ所（いずれも淀江賢一

郎氏による発見）。産廃処分場として埋め立てで湿地が破壊され、絶滅状態である。

## 【存続を脅かす原因】

湿原の開発。

## 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○			○																

チョウ目タテハチョウ科

# ウスイロヒョウモンモドキ

*Melitaea protomedia* Ménétriès, 1858

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：絶滅危惧ⅠA類 (CR)

## 【選定理由】

中国山地の草原に局所的に広く分布していたが、近年各地で急激に衰退し、多くの個体群が既に絶滅した。県内で唯一の生息地である三瓶山は、国内分布の西限でもある。自然公園法指定動物。

## 【概要】

標高400－800m前後のススキを主体とする乾性草原に生息。幼虫はカノコソウ、オミナエシを摂食する。成虫は6月中旬から7月中旬に現れ、草原をゆるやかに飛翔する。国内で存続が確認されている本種の個体群は2013年時点で5カ所余に過ぎない。本種は東アジア（中国北部・朝鮮半島・沿海州など）にも分布する。

## 【県内での生息地域・生息環境】

本種が確認されているのは三瓶山のみ。三瓶山では中茎ススキ草原の下に生育するオミナエシをおもな食草としている。成虫期は7月上・中旬で、吸蜜植物はおもにオカトラノオ。かつては東の原、男三瓶山頂、室の内な

ど三瓶山のあちこちで成虫が見られたが、2000年には女三瓶山頂に残存するのみとなった。ここでは島根県などによる保全事業が取り組まれ、2006年には450個体の成虫発生（標識再捕による推定値）が確認され、男三瓶山頂や東の原にも一時的に個体群が復活したが、その後2006年豪雨（卵期）や2007年台風（成虫期）の影響で衰退し、2008年以降、個体群は飼育・放虫による「対策依存状態」に陥っていた。しかし、2010年7月3日に放虫した蛹の全てをネズミに食害され、その後、毎年成虫期に探索が続けられているが、2013年まで発生がまったく確認されていない現状にある。

## 【特記事項】

現在、環境省を主体として生息確認と生息環境維持の努力が続けられている。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	◎				◎																

チョウ目タテハチョウ科

# シータテハ

*Polygonia c-album hamigera* (Butler, 1877)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

県内では1950年代の古い記録のみで、近年の追加記録がなく、絶滅が懸念されている。

### 【概要】

同属で平地から山地まで見かけるキタテハに酷似するが、翅表に青い鱗粉がないなどの特徴があり識別は容易。年2回の発生で6月から8月に夏型が見られ、9月ごろから秋型が羽化する。樹林周辺や渓谷沿いに見られ、花で吸蜜したり地上で吸水したりする。飛び方はキタテハより敏速で、人が近づくと敏感に反応するが、吸水中驚いて飛び立っても再び戻ってきて同じ場所で吸水もする。秋型は翅の外縁の切れ込みが大きくなり、裏の模様も変化し、そのまま越冬する。冬の環境に対応するための衣替えだと思われる。翌春現われる越冬個体は、生息地を離れ遠くまで移動することがあるといわれている。既知の食草はハルニレ、エノキ、イラクサ科のコアカソなどだが、山陰ではハルニレと思われる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

旧・仁多町呑谷など局地的に発生していた古い記録がある（森山正治氏による複数の採集記録。標本も現存する）。しかし、鳥取県智頭町沖の山で1985年に記録されて以来、山陰地方での確認情報はない。食草は現在でも多く見られるのに姿を消した原因はさだかでない。長野県信州地方では車の多い国道沿いの渓谷でも、20年前から変わらず見られる所もあり、環境が激変し見られなくなった場所もあることから、生息地自体の変化のほかに、北方系の種であることから温暖化も影響しているかもしれない。県内ではすでに絶滅している可能性も高い。今後は幼虫の探索が必要だろう。

### 【存続を脅かす原因】

渓谷沿いの開発、林道建設などによる環境変化。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△				△																	

チョウ目タテハチョウ科

# ホシミスジ近畿地方以西亜種

*Neptis pryri hamadai* Fujioka et Minotani, 2000

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 14

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

生息地が限定され、激滅している。

### 【概要】

翅長26-32mm。翅裏の基部に黒い斑点があるのが特徴で、近似種との識別は容易。低山地の露岩地に見られる。山陽側では年2-3回の発生といわれているが、県内では8月には食樹イブキシモツケ、ユキヤナギの葉で巣を作り越冬態勢に入り年1回の発生（まれに2化）。飛翔はゆるやかで、ウツギなどに訪花、ときには吸水もする。近年、本県の個体群はmt-DNA研究によって特異な個体群であることがわかった。また、隠岐諸島の4島に生息している個体群も特異であり別亜種（ssp. *yodoei*）とされる。

### 【県内での生息地域・生息環境】

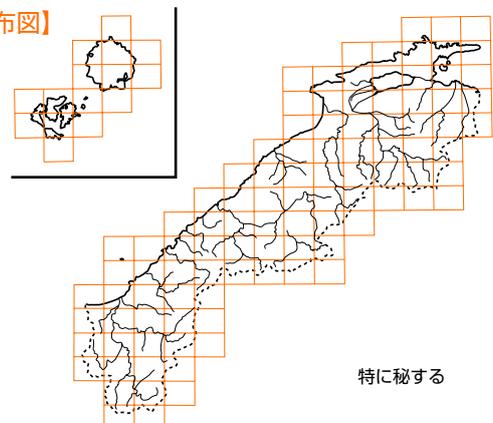
三瓶山、三階山、大麻山、立久恵峡、江の川流域（断魚溪など）で記録されている。いずれの生息地もイブキシモツケなどが生える露岩地。立久恵峡では6月に実施

される殺虫剤空中散布によって激滅した。

### 【存続を脅かす原因】

農薬空中散布、露岩地の荒廃。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○												○									

チョウ目ジャノメチョウ科

# ウラナミジャノメ本土亜種

*Ypthima motschulskyi nipponica* Murayama, 1969

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 【選定理由】

1990年代ごろから、生息地が著しく狭められており、個体数も少ない。絶滅が憂慮される。

## 【概要】

翅長23－28mm。後翅裏面の眼状紋が3つで、同属のヒメウラナミジャノメは5つある。西日本の平地から低山地の露岩地草付、湿地、河川敷、田畑の山側のノリ面、雑木林林縁などに局所的に生息。対馬、屋久島など離島にも生息しているが、隠岐諸島には分布していない。年2回、6月と8～9月に出現。

## 【県内での生息地域・生息環境】

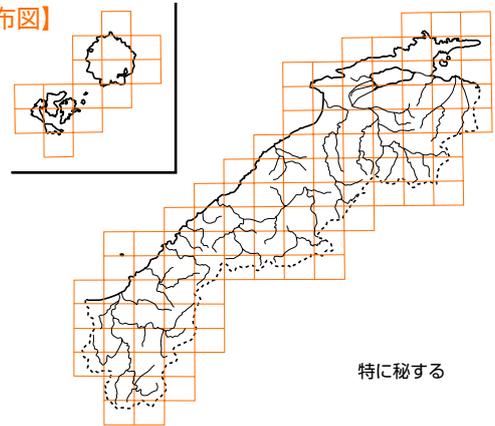
島根半島から益田市まで局所的に生息するが密度は低い。比較的個体数の多い浜田市での観察では、日あたりのよい乾燥した休耕畑や手入れの少ない果樹園で、丈の低いチガヤ、アシボソなどの茂った場所でよく見られた。最近の調査では県内における本種のもっとも重要な生息環境は平地～低山地の露岩地であることが判明した。そ

こでの食草はヤマカモジグサと推測される。

## 【存続を脅かす原因】

露岩地の荒廃、農薬空中散布、雑木林林縁の手入れ不足。

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域					平野地域					海岸地域				
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	崖地	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△	○	○							△				○		△				○			

チョウ目ジャノメチョウ科

# クロヒカゲモドキ

*Lethe marginalis* (Motschulsky, 1860)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵 15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

## 【選定理由】

本州、四国、九州に分布するが産地は限られる。県内では浜田市周辺のみから知られていたが、衰亡が著しく絶滅が危惧されている。

## 【概要】

翅長30－34mm。同属のクロヒカゲに似るが眼状紋の大きさで識別できる。年1回7月中旬に出現。クヌギ、コナラなどの雑木林の林縁を生息域とし、昼間は林の中で静止しているが、曇った日や夕方には活発に活動する。クヌギ、タブの樹液を好み、訪花は観察されていない。多産する中部地方（長野県、山梨県など）も開発で雑木林が荒れ、減少している。

## 【県内での生息地域・生息環境】

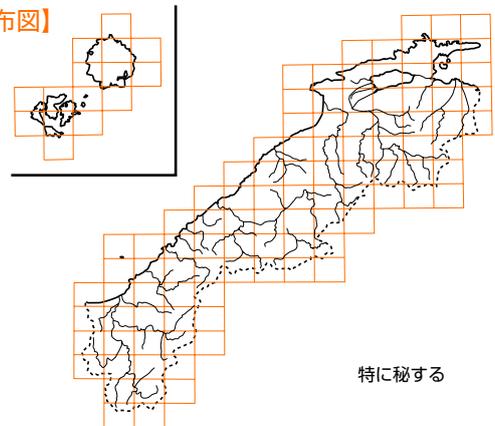
本種の生息が唯一確認されている浜田市三階山周辺は近年、高速道路、県立大学などの大規模開発がすすみ生息域が極端に減少している。わずかに残されたクヌギ林の保全が必要であり、このままクヌギ林の伐採が進めば

本県から姿を消す恐れがきわめて高い。

## 【存続を脅かす原因】

大規模な開発によるクヌギ雑木林の荒廃。

## 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域					平野地域					海岸地域			
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○						○													

昆虫類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

チョウ目ジャノメチョウ科

# ウラジャノメ

*Lopinga achine* (Scopoli, 1763)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：分布限界種 (西限)

環境省：－

### 【選定理由】

県内では奥匹見峡、旧・恐羅漢山など限られた場所のみ生息し、著しく減少している。

### 【概要】

翅長22-30mm。本州では1,000mを越える山地に生息地が見られ局地的になる。成虫は6月下旬から7月上旬ごろに見られ、ゆるやかに飛び、開けた場所に出てきてはすぐ葉に止まり翅をよく広げる。メスを生かして放置しておく、容易に産卵する習性がある。

### 【県内での生息地域・生息環境】

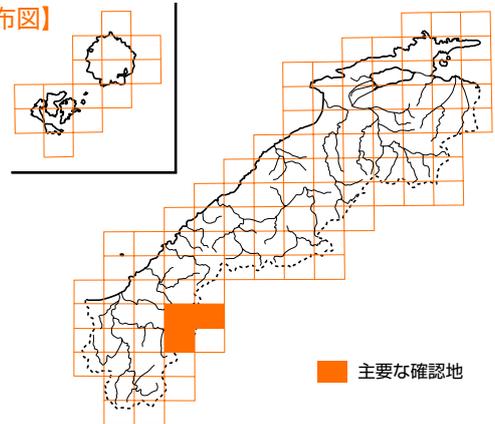
旧・恐羅漢山頂は周辺が林になり、中央部は開けて登山者の休憩場所にもなっている。周辺には低木やクマザサなどが見られる。晴天の日には朝8時半ごろより活動を始め、島根県側の林から多くは飛び出してきた。しかし現在はほとんどその姿を見ることはできず絶滅が憂慮されている (なお、このポイントは中村泰士氏が発見されたものである)。冬季は積雪も多く厳しい環境になる

が、幼虫はニシノホンモンズゲを食草として育つ。

### 【存続を脅かす原因】

山頂部の改変伐採。露岩地の荒廃。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	崖	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○														

チョウ目セセリチョウ科

# キバナセセリ

*Bibasis aquiline chrysaeglia* (Butler, 1882)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

隠岐 (島後) を除けば近年の記録がなく、絶滅が危惧されている。

### 【概要】

翅長21-22mm。年1回6月中～下旬ごろから落葉広葉樹林周辺や山道脇によく姿を現わし、獣の糞に來たり、時には吸水、オカトラノオなどの花にも來る。吸水時には自分の排出液を吸う吸い戻し行動を見かける。午後には山頂付近で占有行動をとる。

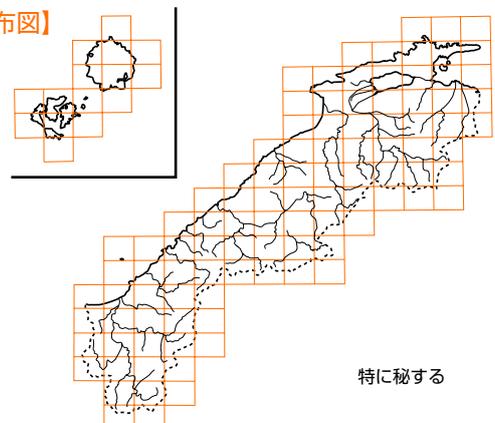
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では、1957年仁多町呑谷で採集されたのが初記録。その後、雲月山、隠岐 (島後) で採集されているが、隠岐諸島を除けば記録が古く共に1例のみのため、現在では生息していないと思われる。隠岐 (島後) は海岸に近い所に生息地が見られるが、松枯れ対策の殺虫剤空中散布により、本種に悪影響が出ている。隠岐 (島後) で確認されている食樹はハリギリ (山本正志氏の発見)。

### 【存続を脅かす原因】

ハリギリを含む落葉広葉樹林の伐採、殺虫剤空中散布。

### 【分布図】



生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域						
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	崖	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
△			○					○						○					○			

チョウ目セセリチョウ科

# コキマダラセセリ

*Ochlodes venatus* (Bremer et Grey, 1852)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：－

### 【選定理由】

中国山地沿いに生息地がわずかに見られるのみで、絶滅が危惧されている。

### 【概要】

翅長20-22mm。北海道から山口県東部あたりまで分布するが、北海道では低地でも見られ小型であり、中部地方から中国地方にかけては、山間部の湿地性草原に見られ、大型化。中部地方では標高2,000m近い乾燥草原にも見られる。翅が赤橙色で白く薄い斑紋があり、明るい感じがするチョウで、一見ヒメキマダラセセリにも似るが識別は容易。7月に多く見られ、敏速に飛ぶ。ノアザミ、オコトラノオなどの花を訪れ、時には吸水もする。

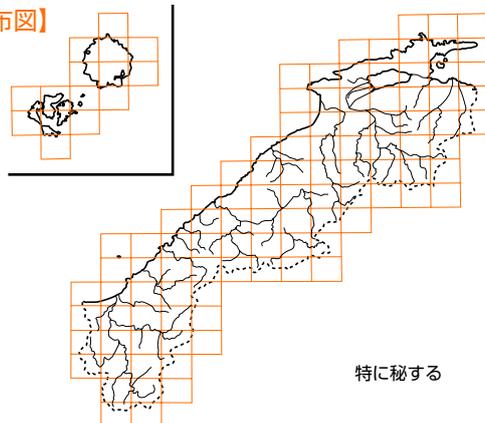
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では標高500m以上の湿原に見られるが、そのような条件に合う場所は中国山地沿いにわずかに見られるに過ぎず、個体数も少ない。湿地は遷移により植生変化する不安定な環境であり、今後の動向には注意を要する。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い湿地の開発。

### 【分布図】



特に秘する

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○			○																

昆虫類

チョウ目セセリチョウ科

# ホシチャバナセセリ

*Aeromachus inachus* (Ménétrières, 1858)

島根県：絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

写真 口絵15

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧ⅠB類 (EN)

### 【選定理由】

生息地が限定され、減少が著しい。

### 【概要】

翅長10-15mmでセセリチョウの中では最小。本州、対馬に生息し、山陰では7-8月にかけて年1回の発生。食草オオアブラススキがある樹林周辺の草原に見られる。各種の花を訪れるが、飛び方は敏速でハエのようにも感じられ、また風景に溶け込んで見失うことが多く発見しにくい。1980年代より各地で減少しまれにしか見られなくなっているが、セセリチョウという地味なグループのため、中・大型のチョウのようにとりたてて騒がれることがない。

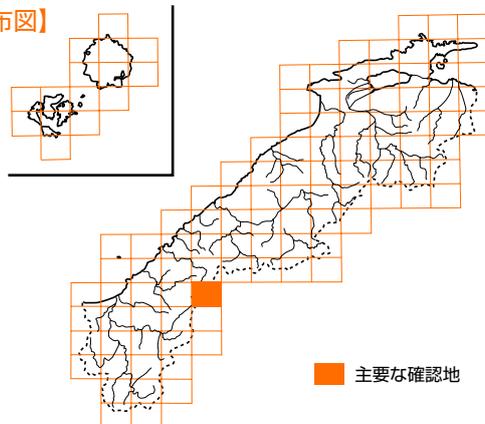
### 【県内での生息地域・生息環境】

県内では西部の中国山地沿いで傍示峠、雲月山の2カ所が知られるのみだが、1980年代より開発などの影響で生息地が破壊され、きわめてまれな種になっている。

### 【存続を脅かす原因】

自然度の高い草原を破壊する開発、草地の荒廃。

### 【分布図】



主要な確認地

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○			○																

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足